



Fintech
Open Source
Foundation

FINOS 2024 IN REVIEW: A LETTER FROM THE CHAIR

FINOS コミュニティのみなさまへ

2025 年に向けて、FINOS と金融サービスにおけるオープンソースコミュニティの成長、イノベーション、コラボレーションに関してこの 1 年を振り返ることができてうれしく思います。会員数の拡大、プロジェクトポートフォリオの活性化、開発者コミュニティのこれまで以上に深い関与、金融サービスにおける唯一のオープンソースカンファレンスである **OSFF** の英国への拡大の成功など、目覚ましい進歩を遂げてきました。

2024 年は、金融サービスにおける課題の解決とイノベーションの促進におけるオープンソースコラボレーションの戦略的重要性を確固たるものにしました。私たちは最近、FINOS の使命を洗練し、スケーラブルな成長の基盤を整えるための重要な戦略セッションを開催しました。この計画作業は、拡大するコミュニティの進化するニーズに対応し、金融サービスにおける影響力のあるオープンソースコラボレーションを推進するという当社の取り組みを強調するものです。これは、昨年の憲章で成文化された目標に向けて当社が進めた大きな進歩の上に築かれるものです。

1. 会員数が 100 を超え、業界全体と世界中で基盤を拡大・深化させている中で、私たちは活気に満ちたコミュニティを育んでいます。
2. 採用の増加とネットワーク効果の力により、オープンソースの価値は、テクノロジー レベルだけでなくビジネスレベルでも、特に販売側を中心に業界の一部で広く認識されるようになりました。
3. 中立的な IP 管理を提供し、すべてのプレーヤーを仲介から排除し、技術的な決定をより実力主義的でコンセンサスに基づいたものにするオープンガバナンスのレイヤーを追加する能力によって業界における一定の信頼を獲得したため、私たちは大きなことを考えることができると感じています。
4. その結果、私たちは、次世代の金融サービスをオープンソースのビルディングブロックごとに作成しながら、金融サービスが変化するテクノロジー環境（たとえば、人工知能）をナビゲートするのを支援する中心的な役割を果たす準備ができています。

2024 年の私たちの成果の詳細については、以下をお読みください。

Madeleine Dassule
The FINOS Chair



2024 年のマイルストーン

新しい副会長である RBC の Bhupesh Vora 氏とともに理事会の会長を務めた最初の 1 年は、刺激的な年でした。今年、FINOS は金融サービスにおけるオープンソースの推進に対する当社の取り組みを強調する重要なマイルストーンを達成しました。

活気あるコミュニティの育成

業界を超えた会員数とグローバル展開

FINOS は 2024 年に会員数が **100 社** に達し、前年比 20% の成長率を示すなど、目覚ましい成長を遂げており、業界リーダーによるオープンソース コラボレーションへの取り組みが高まっていることを示しています。



本当にエキサイティングなのは、FINOS コミュニティがグローバルかつ業界横断的に成長していることです。現在、会員基盤は売り手側と買い手側の金融機関だけでなく、DTCC などの決済機関、CSP、取引所、市場データプロバイダー、その他のテクノロジー プロバイダー、コンサルタント会社など、その他の戦略的構成員にまで広がっています。また、中国の Ant Group と日本の JPX/JSCC が加わったことで、オープンソースと金融サービスへの世界的な関心が高まっています。



現在 100 名を超えるメンバーの全名簿は、このレポートの最後でご覧いただけます。

OSFF が大西洋横断の活動を再確立

ニューヨークとロンドンで開催されたイベントである Open Source in Finance Forum (OSFF) は、2024 年の FINOS コミュニティの主要な焦点となりました。これらのイベントには、約 1,500 人 (前年比 50% 増) の業界リーダー、開発者、オープンソース愛好家が集まり、洞察を共有し、新たなトレンドについて議論し、オープンソース イニシアチブで協力しました。ロンドンでは、人工知能 (AI)、オープンソース レディネス (OSR)、FDC3、持続可能性 に関するトラックが取り上げられ、ニューヨークでは FDC3 と AI レディネス ガバナンス フレームワーク に関する重要な発表が行われました。



より大きなテントの構築

FINOS は、金融サービスの幹部と貢献者を有意義かつ生産的な方法で結集する、つながりのあるコミュニティを構築することを目的としています。当社の技術活動には、Citi India Hackathon (フィンテックのイノベーションに焦点を当てた FINOS がサポートするハイブリッド イベント) などのハッカソンや、Common Domain Model (CDM) や FDC3 などの FINOS プロジェクトに沿った仮想および対面のコーディング セッションを提供する Tech Sprints などがあります。また、オープンソース コミュニティ内での多様性と包括性を推進することに重点を置いた、Diversity Equity and Inclusion (DEI) Strategic Initiative も設立しました。また、テクノロジー分野の女性とノンバイナリーの個人が集まる世界最大の年次集会である Grace Hopper Celebration 2024 にも参加しました。

最後になりましたが、コミュニティのリーダーとエバンジェリストをサポートし、表彰することを目的とした FINOS アンバサダー プログラム を 2024 年に開始しました。FINOS はまた、年間を通じてさまざまなミートアップやウェビナーを主催および参加し、コミュニティの関与と知識の共有の機会を提供しました。

プロジェクト ポートフォリオの貢献と採用



AI ガバナンス フレームワーク V0.1 のリリース :

新たに発足した **AI Readiness Special Interest Group (SIG)** は、ベンダーに依存しない **AI ガバナンス フレームワーク** を OSFF NYC でリリースし、重要なマイルストーンを達成しました。SIG の協力者には、Citi、Morgan Stanley、および London Stock Exchange Group が含まれています。金融サービスで LLM を使用する AI システムに特化した 15 のリスクと 15 のコントロールを概説したこのフレームワークは、AI ガバナンス、コンプライアンス、信頼、および競争前のユースケースの複雑な状況を乗り越えようとする機関にとって重要な基盤を提供します。



FDC3 は、現在、主要な買い手側、売り手側、および業界をリードするベンダーによって採用されています FINOS 主導の正式な **適合認証プログラム** に支えられた FDC3 標準は、現在、真の業界横断的な接続標準へと進化しており、採用ネットワーク効果は今年大幅に加速しました。この取り組みは、FDC3 標準のより広範な採用と幅広い相互運用性に向けた大きな一歩となりました。主要なプラットフォームである BlackRock の Aladdin や Morgan Stanley の ComposeUI、およびロンドン証券取引所グループ、FactSet、State Street などの業界リーダーを含む、業界横断的な大規模な団体からの **主要な採用および適合声明** が出されました。



共通ドメイン モデル (CDM) とオープン RegTech イニシアチブの採用 :

FINOS は、取引前および取引後の報告を改善するために設計された RegTech Council や CDM Asset Refactor Task Force などの **オープン RegTech イニシアチブ** でも大きな進歩を遂げました。Open RegTech SIG から生まれた **Open Source Regulatory Reporting (ORR)** プロジェクトは、デジタル規制報告ソリューションへの移行を加速し、進化する規制へのコンプライアンスを合理化するための、完全にオープンソース ベースのプラットフォームを提供します。特に注目すべきは、J.P. Morgan が **CDM でのデジタル規制報告** への移行を発表した最初の Tier 1 銀行だったことです。J.P. Morgan、REGnosys、JSCC、DTCC による **最近の OSFF キーノート動画** 'The Path to CDM Industry-wide Adoption' をご覧ください。

OS-Climate との戦略的連携

OSFF ロンドンで発表されたように、OS-Climate は FINOS ファミリーに加わり、オープンソース ツールを使用して持続可能な金融と気候の課題に取り組んでいます。競争前のデータテクノロジー、モデリング、分析ツールの構築に専念するオープンソース コミュニティである OS-Climate とともに、FINOS は気候変動の緩和と回復力へのビジネスに沿った世界的な資本再配分の取り組みをサポートする予定です。これは、急速に拡大する気候危機に対処するために必要な規模とペースで資本を配分する取り組みにおいて、金融、投資、規制遵守、ポリシーの分野で関係者が直面する永続的な課題に対処するための重要な対応であるだけでなく、金融業界の戦略的かつビジネスに沿った課題にオープンソースがどのように影響を与えているかを示す重要な証拠でもあります。

教育と認定

新しいトレーニングおよび認定プログラムの立ち上げからオープンソース コラボレーションのリソースの拡張まで、FINOS はウェビナー、ワークショップ、オンライン コースなどのオープンソース トレーニング リソースのライブラリを拡張し続け、個人や組織がオープンソース プロジェクトに効果的に貢献し、オープンソース テクノロジーを活用できるように支援します。主なハイライトは次のとおりです。

Financial Services Open Source Development (FSOSD) トレーニングおよび認定

FINOS オープンソース準備知識体系は、金融機関が完全なコンプライアンスを遵守してオープンソース コミュニティに参加するための業界標準として広く認識されています。2023 年に開始された正式なトレーニングは、現在、大手金融機関の社内開発者カリキュラムの一部としてますます導入されており、この認定は、SI およびサービスプロバイダーが金融サービスにおけるオープンソース開発の専門知識を認識するための基本です。メンバーは無料で受講できます。トレーニングは、[こちらでご確認ください](#)。

FDC3 トレーニングと認定

2023 年に FDC3 固有のトレーニングおよび認定プログラムが開始されたことで、FDC3 エコシステムがさらに加速し、相互運用性標準のより広範な採用がサポートされました。

Common Domain Model (CDM) トレーニング

TradeHeader と The Linux Foundation の共同で開発されたこの新しい無料コースは、金融専門家に CDM について教育することを目的としており、今年の CDM の採用の加速に貢献しました。

アクセシビリティ テーマビルダー メンターシップ プログラム

Discover Financial Services がスポンサーとなり、デザイン システムへのアクセシビリティの統合に重点を置いています。



45%

(昨年より 10% 増) が、AI/ML が業界の将来にとって重要であることに同意しています。

- THE 2024 STATE OF OPEN SOURCE IN FINANCIAL SERVICES

84%

回答者の84%は、OSSの使用が組織にビジネス価値をもたらすことに同意しています。

- THE 2024 STATE OF OPEN SOURCE IN FINANCIAL SERVICES



オープンソースの現状レポート - オープンソースの導入の加速

2024年版のレポート“State of Open Source in Financial Services”（日本語版：金融サービスにおけるオープンソースの現状）は、業界内でのオープンソースの採用、貢献、準備の現状に関する貴重なデータと洞察を提供します。GitHub、Linux Foundation Research、Red Hat、Scott Logic、Sonatype と共同で実施されたこの調査は、進捗状況を追跡し、オープンイノベーションとコラボレーションの領域を特定するためのベンチマークとして役立ちます。今年の主な調査結果は次のとおりです。

- 1. ソフトウェア品質の向上**：FINOS 調査の回答者の 88% が、オープンソースソフトウェアを使用すると組織内のソフトウェア品質が向上すると回答しています。
- 2. ビジネス価値の提供**：回答者の 84% が、オープンソースソフトウェアを使用すると組織にビジネス価値がもたらされることに同意しています。
- 3. オープンソースへの貢献の増加**：金融サービスプロフェッショナルによる GitHub への貢献は、前年と比較して 26% 急増しています。
- 4. 貢献への参加の増加**：回答者の 84% が、サードパーティのオープンソースへの貢献に業務時間を費やしていると報告しており、2021 年の 41% から増加しています。
- 5. 内部ソースの採用の増加**：内部ソースプラクティスの採用は引き続き増加しており、回答者の 88% が組織内の内部ソースプロジェクトに貢献していると報告しており、2021 年の 63% から増加しています。
- 6. 財政的コミットメントの増加**：組織の 49% が、寄付、財団、スポンサーシップを通じてオープンソースに資金を提供していると回答しています。
- 7. イノベーションの開放**：業界間のコラボレーション、業界標準、オープンデータは、オープンソースの恩恵を受けられることができる金融サービスの主な分野です。
- 8. セキュリティの優先**：現在、組織の 50% が、セキュリティと脆弱性のテストをオープンソースへの貢献活動の一部として取り入れています。

オープンソースを通じて金融サービスの未来を形作る

FINOSは2025年に向けて、金融サービスにおけるオープンイノベーションを加速するという使命に取り組んでいます。業界の課題に対処し、イノベーションを促進し、より回復力があり、効率的で、安全な金融サービスエコシステムを形成するには、オープンソースコラボレーションが不可欠であると確信しています。

2024年に私たちが成し遂げた進歩は、コミュニティの献身と協力によって推進され、さらに明るい未来への基盤を築きます。私たちは力を合わせて、オープンソースの変革の可能性を解放し、金融サービス業界に前向きな変化をもたらす続けます。

2025年の計画について詳しくご覧ください。

会員の皆様に感謝いたします

Platinum

BMO Citi GitHub Goldman Sachs J.P.Morgan
Morgan Stanley NVIDIA PROTECT AI RBC UBS WELLINGTON MANAGEMENT

Gold

ANT GROUP BlackRock Capital One DISCOVER DTCC FACTSET Fannie Mae
GitLab Google Cloud Hedera intel interop.io JPX LLOYDS LSEG Microsoft
MOODY'S NatWest publicis sapient Red Hat sonatype S&P Global SYMPHONY thoughtworks Tradeweb

Silver

Adaptive Allianz Amundi AWS BCG BNP PARIBAS BNY CANONICAL CloudBees
CodaThink Container Solutions connectifi controlplane databricks epam Fidelity Genesis RESEARCH JUXT
KPMG LEADING POINT Luxoft Mend.io MIRANTIS PRI Provectus PERCONA Pivotal REGnosys
SCOTT LOGIC STATE STREET Synchran SYNTASSO Temporal TESTIFYSEC TIDELIFT TRADE HEADER tuintab1
Capgemini

Associate

AIR AlmaLinux Amdo COLUMBIA UNIVERSITY CRTA | ACTR DATA FOUNDATION THE DIGITAL DOLLAR SOCIETY
EDM Council ESDP FIX TRADING COMMUNITY InterWork Alliance ISDA ISLA INTERNATIONAL SOFTWARE FOUNDATION
Interledger Foundation Mifos mojaloop openFinity OpenUK RegTech SCION ASSOCIATION

FINOSについて詳しく知る

FINOSは、金融サービスにおけるオープンソース、オープンスタンダード、共同ソフトウェア開発手法の導入を促進することを使命とする非営利団体です。FINOSは、オープンソース開発者と金融サービス業界が、ビジネス運営に持続的な影響を与える新しいテクノロジープロジェクトを構築するためのセンターです。FINOSは、世界最大の共有テクノロジー組織であるLinux Foundationの一部です。

ぜひFINOSにメンバーとして参加してください。FINOSのニュース、イベント、ポッドキャスト、ブログなどの最新情報を入手するには、[こちらからサインアップ](#)してください。

この日本語文書は、FINOS 2024 in Review – A Letter from the Chair の参考訳として The Linux Foundation Japan が提供するものです。

翻訳協力：鯨井貴博

[finos.org](https://www.finos.org)
info@finos.org
1 650 665 9773

